Azure Pipelines 補足

- ・パイプラインの種類(<mark>クラシック</mark>とYAML)
- ・ゲートと承認
- ・変数と式
- ・タスクグループ

パイプラインの種類

クラシック パイプラインとYAMLパイプライン

Azure Pipelinesで作成できるパイプライン

- (旧) <mark>クラシック パイプライン</mark>
 - ビルド パイプライン(ビルド、テストを実行)
 - ・リリース パイプライン(リリースを実行)~

ビルドパイプラインと 組み合わせ可能 YAMLパイプラインとは 組み合わせ不可

• (新) YAML パイプライン (ビルド、テスト、リリースを実行)

クラシック パイプライン vs YAMLパイプライン

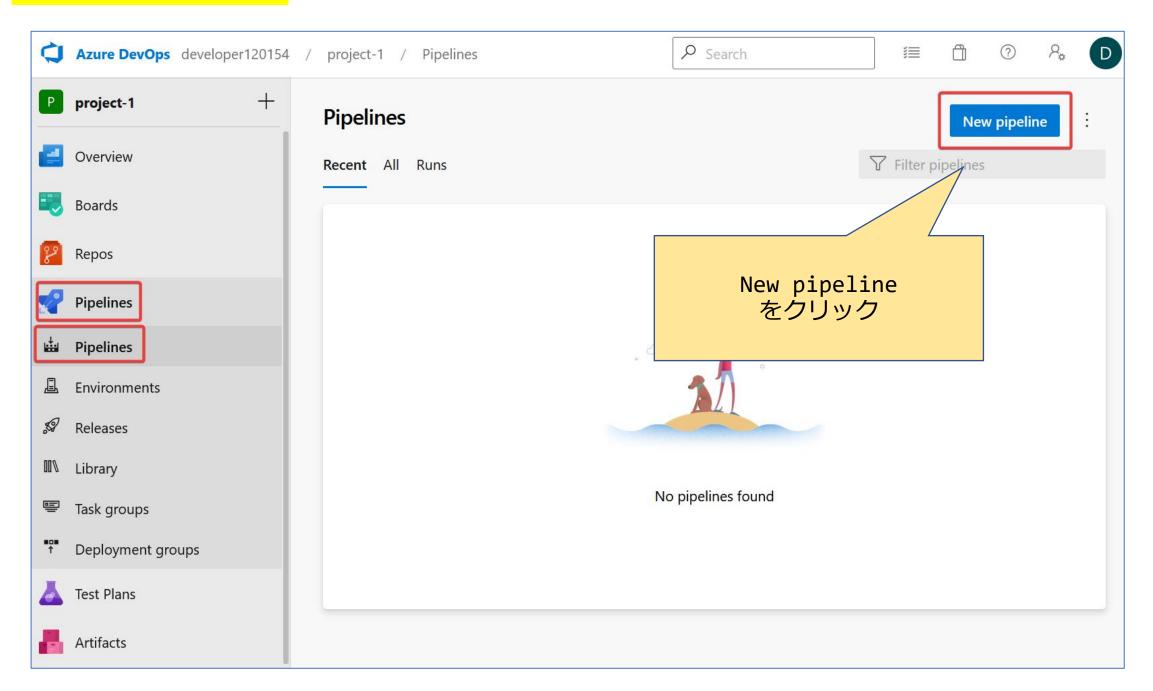
パイプラインの種類	<mark>クラシック パイプライン</mark> (ビルド パイプライン+ リリース パイプライン)	<mark>YAMLパイプライン</mark> (2017/11/15~)
エディター (ユーザーインターフェース)	グラフィカルエディター	YAMLパイプラインエディター
ビルド・テストと リリースの統一	統一されていない。 ビルドパイプラインと リリースパイプラインで 別のUIを使用。	統一されている。 ビルド・テスト・リリースを 1つのYAMLファイルに記述可。 (2020/4/28~)
CI/CDをコードとして記述・ CI/CDをコードと一緒に保存	できない	できる
パイプライン定義の 保存場所	Azure DevOpsプロジェクト	接続したリポジトリ内の azure-pipelines.yml
移行	YAMLパイプラインへの移行(YAML エクスポート)が可能	-

https://devblogs.microsoft.com/devops/pipeline-as-code-yaml-preview/

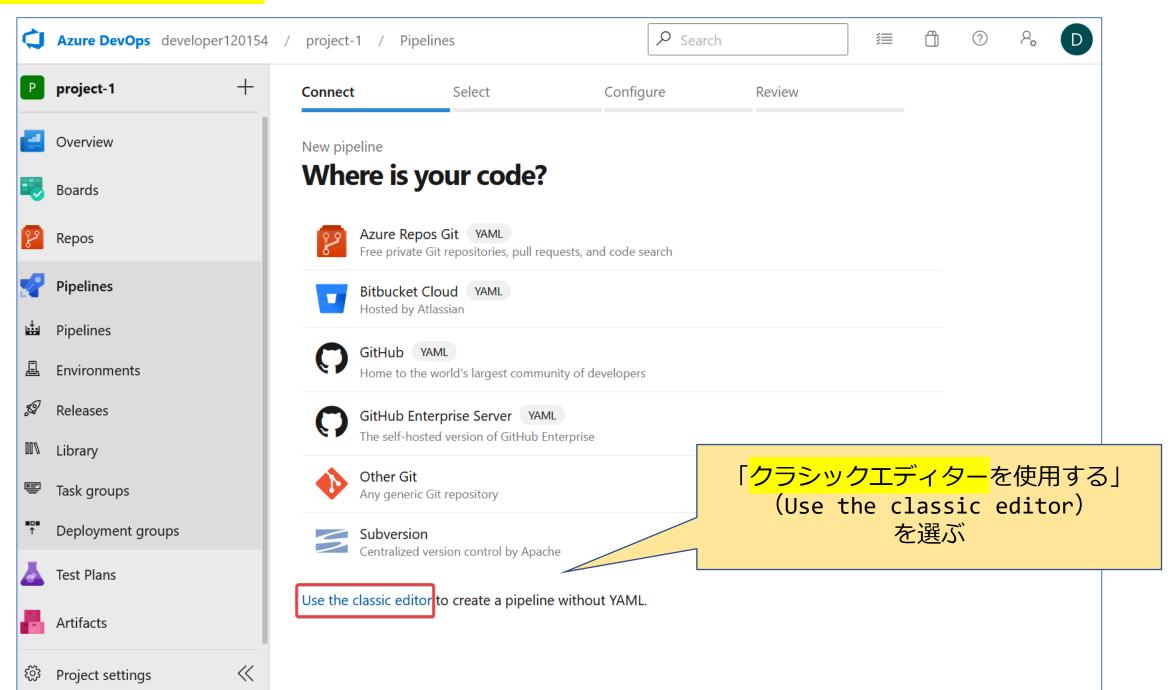
https://devblogs.microsoft.com/devops/announcing-general-availability-of-azure-pipelinesyaml-cd/

クラシック パイプライン ビルド パイプライン

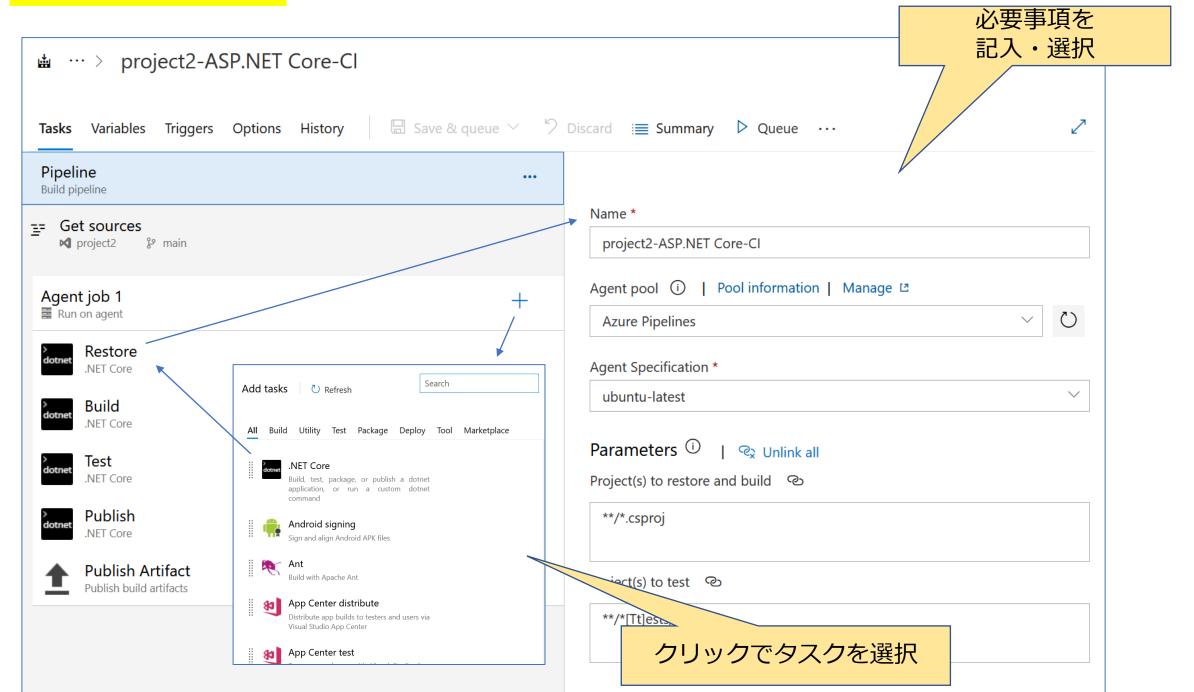
■「<mark>クラシック パイプライン</mark>」の「ビルド パイプライン」の作成



■ 「<mark>クラシック パイプライン</mark>」の「ビルド パイプライン」の作成

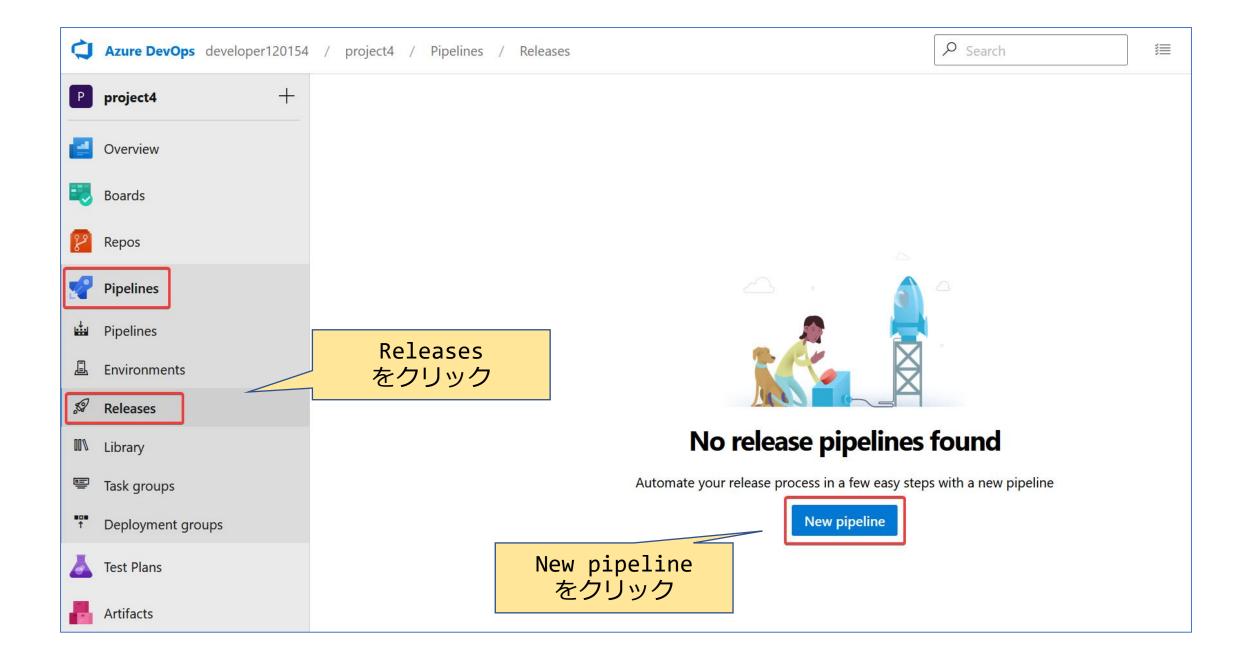


■ 「<mark>クラシック パイプライン</mark>」の「ビルド パイプライン」設定例

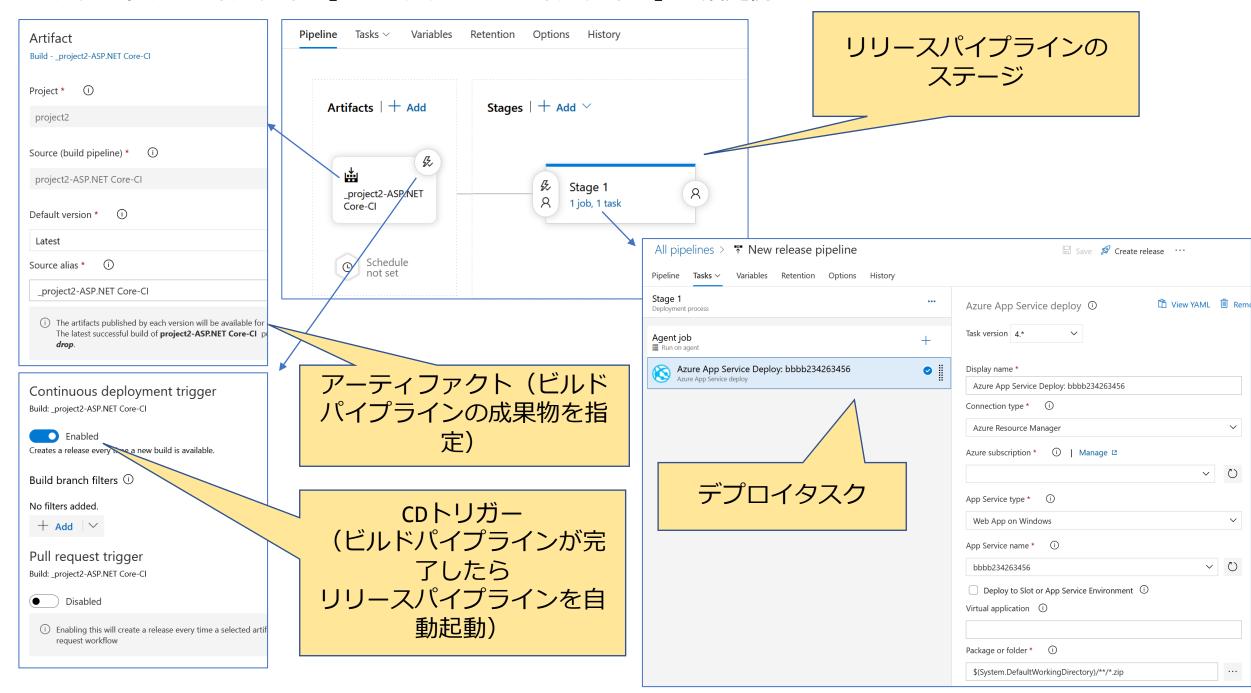


クラシック パイプライン リリース パイプライン

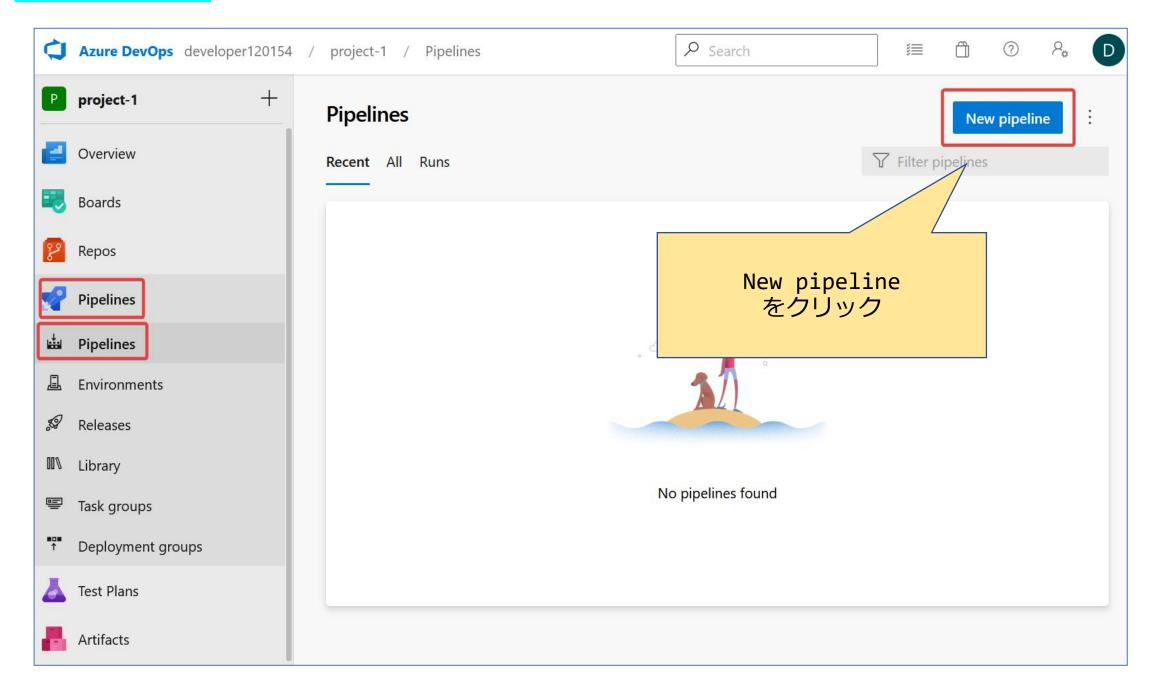
■「クラシック パイプライン」の「リリース パイプライン」の作成

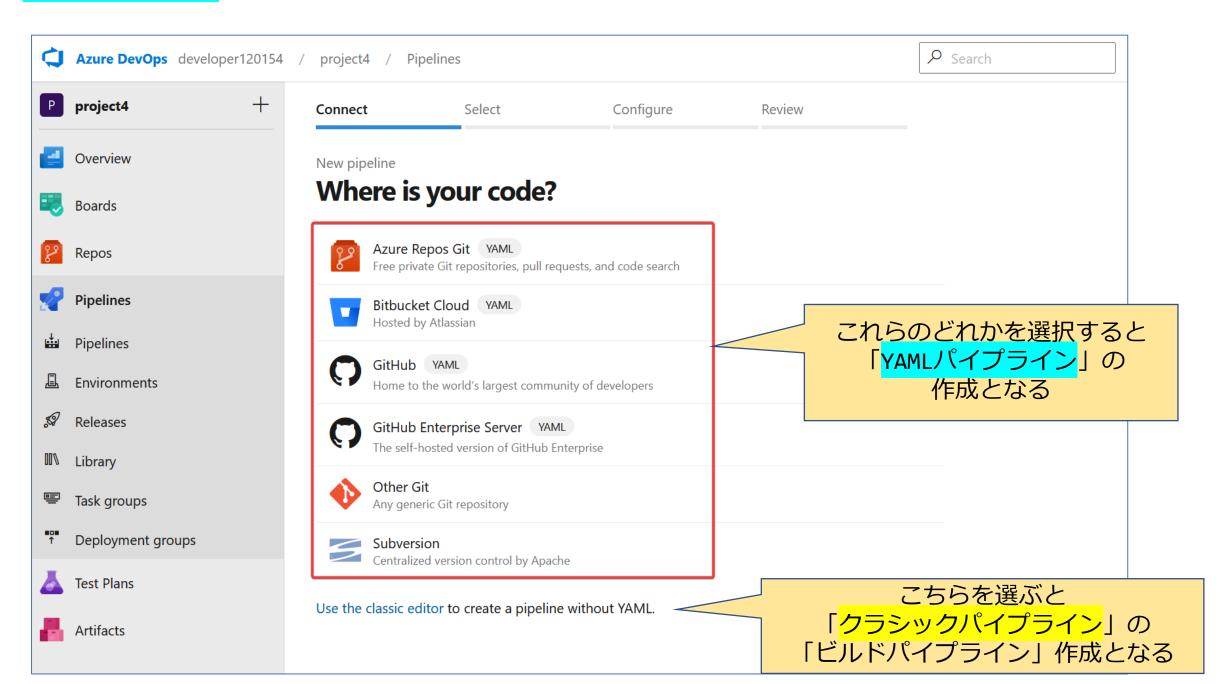


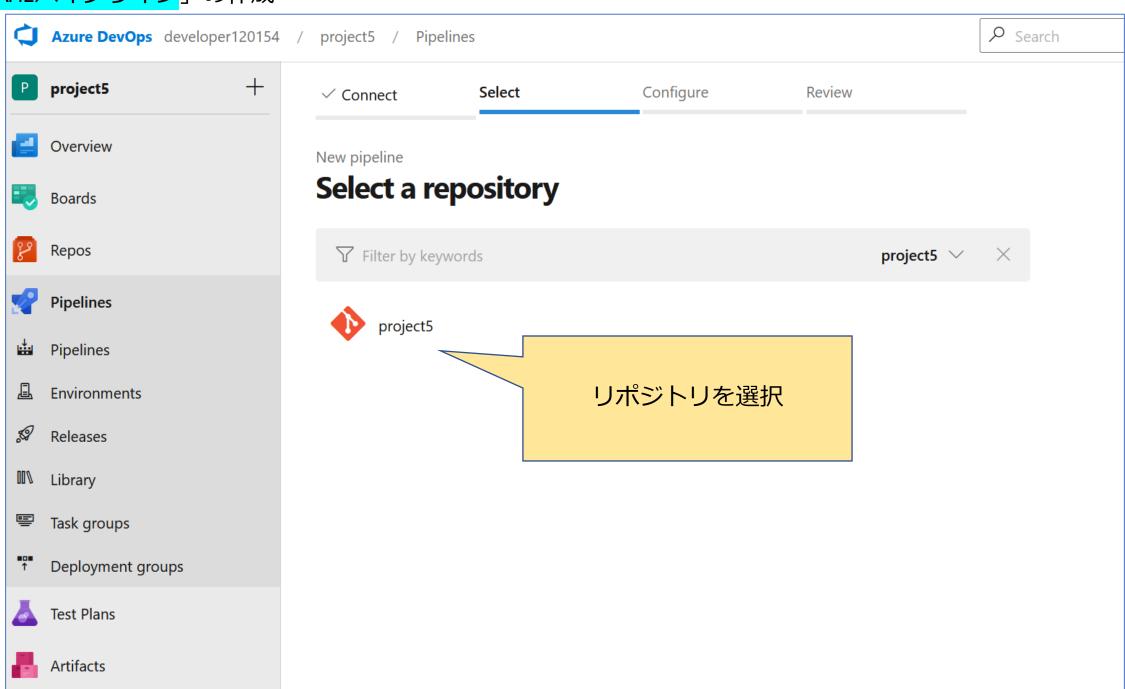
■「クラシック パイプライン」の「リリース パイプライン」の設定例

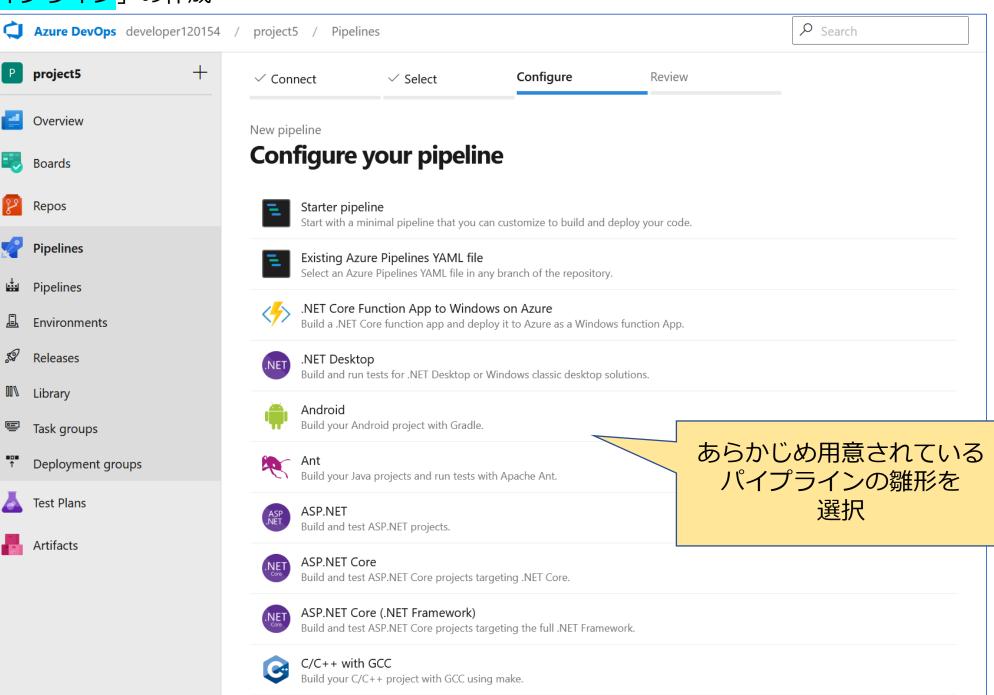


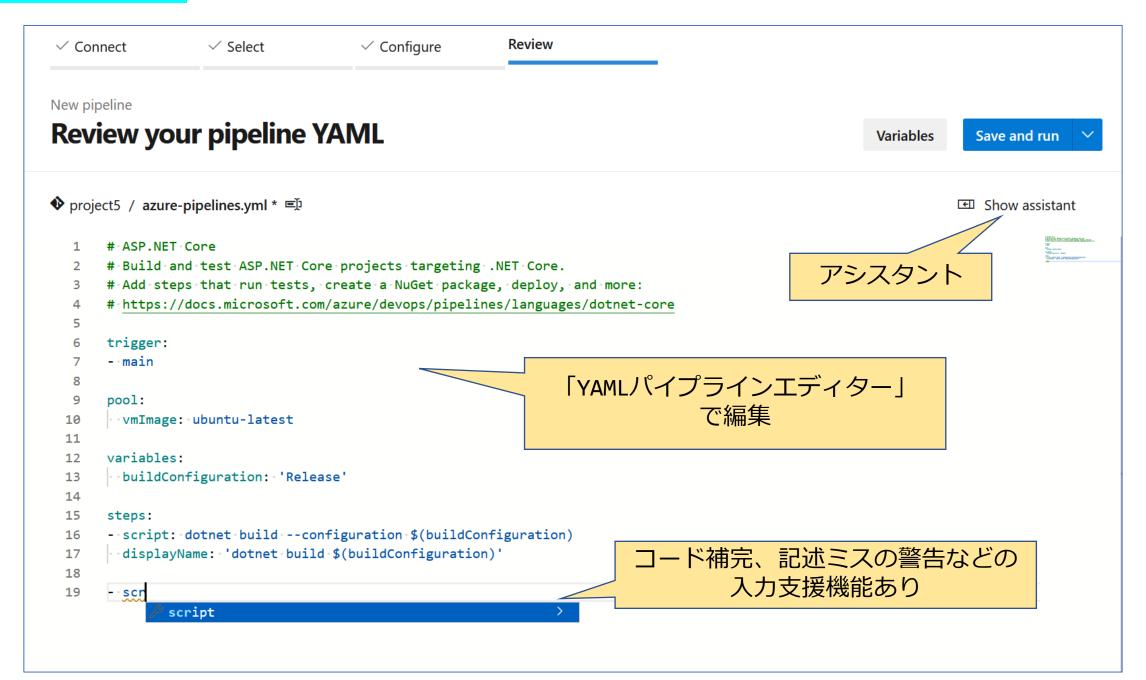
YAMLパイプライン

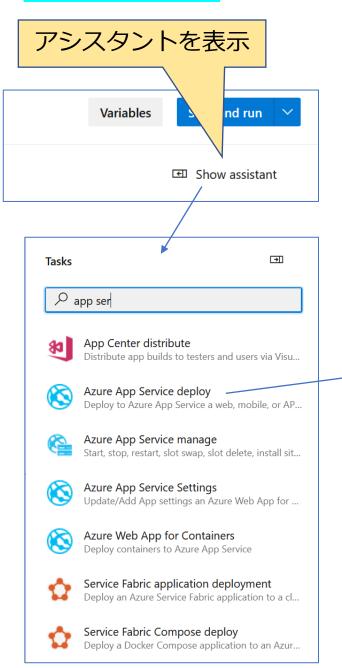


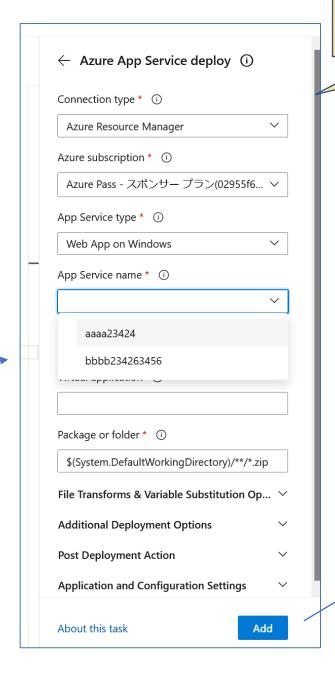












必要事項を記入して 「Add」をクリック

```
#-ASP.NET-Core
     # Build and test ASP.NET Core projects targeting
     # Add steps that run tests, create a NuGet pack
     # https://docs.microsoft.com/azure/devops/pipel
     trigger:
     --main
     pool:
      vmImage: ubuntu-latest
10
11
12
     variables:
                      タスクが追加される
      -- buildCor
13
14
15
     steps:
                            --configuration $(buildCo
16
     - script: dotnet
                        net build $(buildConfiguration)
17
       displayName:
18
     Settings
     task: AzureRmWebAppDeployment@4
19
       inputs:
20
      ConnectionType: 'AzureRM'
21
22
        azureSubscription: 'Azure Pass - スポンサー
         appType: 'webApp'
23
24
         WebAppName: 'aaaa23424'
         packageForLinux: '$(System.DefaultWorkingDi
25
```

リリース トリガー

パイプラインやステージを自動的に起動する仕組み

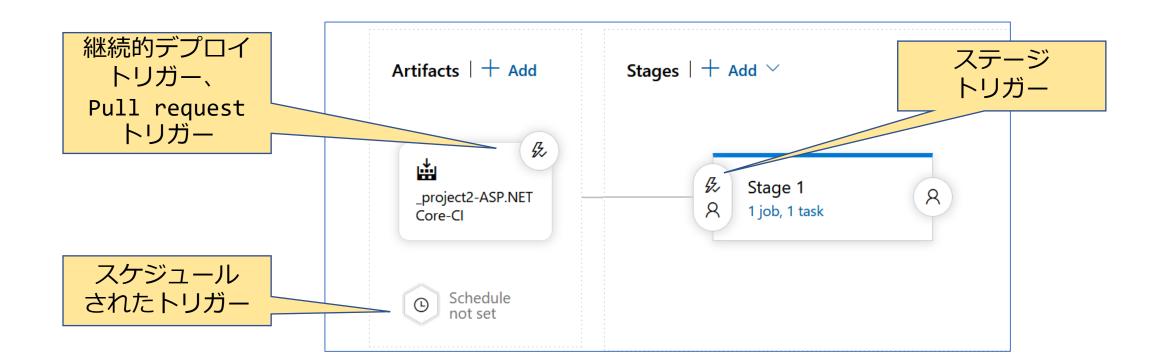
- ※<mark>クラシック パイプライン</mark>のみ
- ※<a href="mailto:yaml///プライン"では「リリース トリガー」は使用できないが、機能的には YAMLパイプラインの「トリガー」が対応する。

クラシック: https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/devops/pipelines/release/triggers

YAML: https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/devops/pipelines/build/triggers

リリース トリガーとは?

- 条件が満たされた際に、リリースパイプラインを自動的に起動して、 (ビルドパイプラインで作成された)成果物をデプロイする機能。
- リリース パイプラインの設定の一部。



リリース トリガーの例

- ・継続的デプロイ トリガー
 - ・ 条件: ビルド パイプラインが完了し、成果物が使用可能になった
 - 使用例: ビルドパイプラインが完了したら自動でリリースパイプラインを起動したい場合
- スケジュールされたトリガー
 - ・ 条件: 指定した曜日・時刻になった
 - 使用例: 毎週月曜日の午前9時に成果物をテスト環境へデプロイしてテストしたい場合など
- Pull request トリガー

プルリク検証環境に向く

- 条件:プルリクエスト作成時や変更時に動いたビルドパイプラインが完了し、成果物が使用可能になった
- 使用例: プルリクエスト作成時に、プルリクエストを取り込んだ成果物を生成し、プルリクエスト検証用環境にデプロイして検証したい場合など
- ステージ トリガー: 特定のステージで使用されるトリガー

本番環境に向く

- 条件:他のステージで、デプロイが成功した (など)
- 使用例: 「QA環境」ステージを実行し、そのデプロイが成功したら、「本番環境」ステージを 実行して本番環境にデプロイする、など

テスト環境でテス ト中にデプロイが 行われる可能性が あるため、テスト 環境には向かない

テスト環境に向く

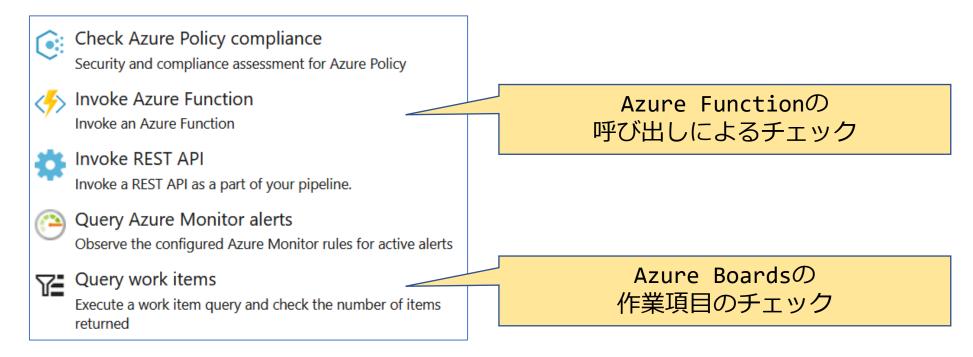
ゲート

状況によって、デプロイ実行やステージ進行をストップさせる機能。 教材等では「リリース ゲート」と書かれている場合もある。

<mark>クラシック パイプライン</mark>、YAMLパイプライン</mark>両方で利用可能。

「ゲート」とは?

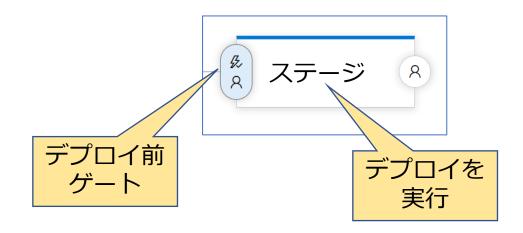
機械的なチェックにより、デプロイ実行やステージ進行をストップさせる機能。



• 「デプロイ前ゲート」と「デプロイ後ゲート」がある。

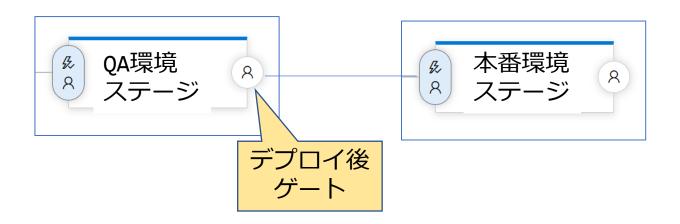
「デプロイ前ゲート」の例

- Azure Boardの作業項目でバグを管理している。
- DONE(完了)になっていないバグが存在するかどうかをゲート で確認する。
 - バグがある場合は、デプロイをしない
 - バグがない場合は、デプロイを実行

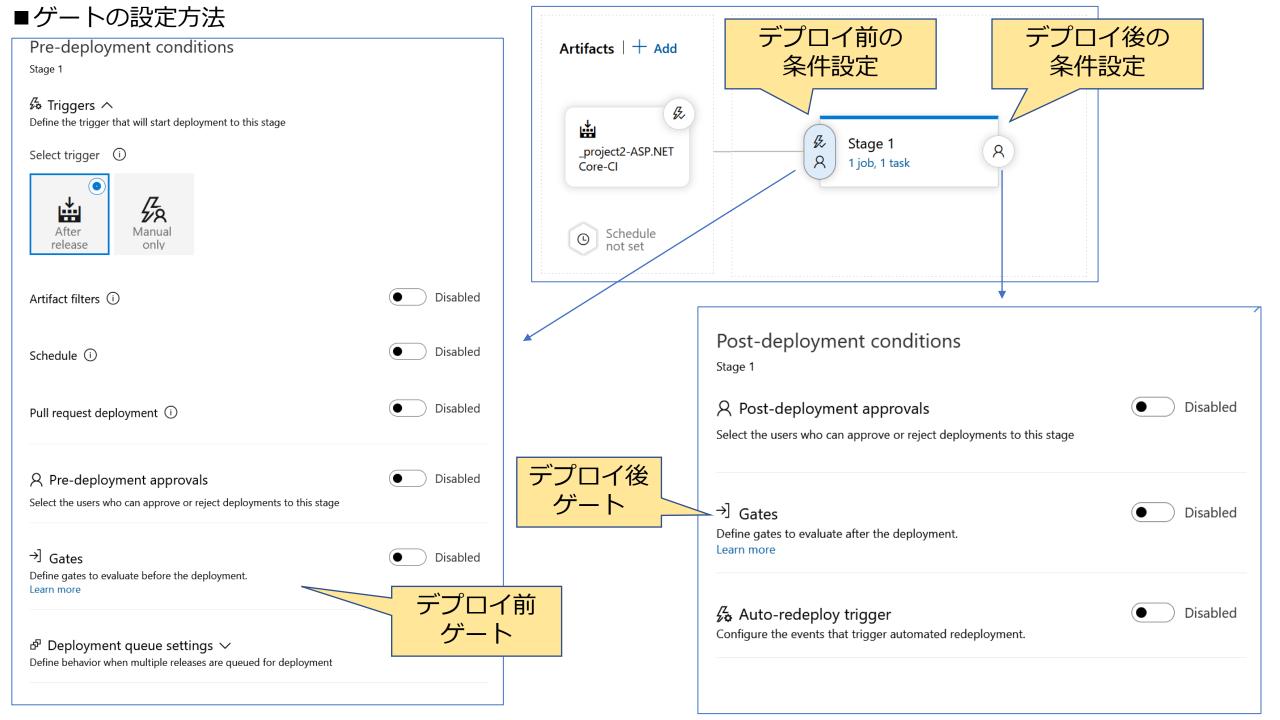


「デプロイ後ゲート」の例

- 「QA環境」ステージと「本番環境」ステージがある。
- まず「QA環境」ステージへのデプロイを実行し、そのデプロイ が成功したかどうかをゲートで確認する。
 - 成功なら、次の「本番環境」ステージのデプロイを開始する。
 - 失敗なら、次の「本番環境」ステージのデプロイは開始しない。



https://www.benday.com/2020/07/31/azure-devops-pipelinesunderstanding-pre-deploy-and-post-deploy-approvals/



承認

人間による承認(許可または拒否)。

<mark>クラシック パイプライン</mark>、YAMLパイプライン</mark>両方で利用可能。

「承認」とは?

ゲートと同じだが、デプロイの前または後に人間がチェックを 行う機能。

• **人間が状況を判断**した上で、approve (許可) または reject (拒否)

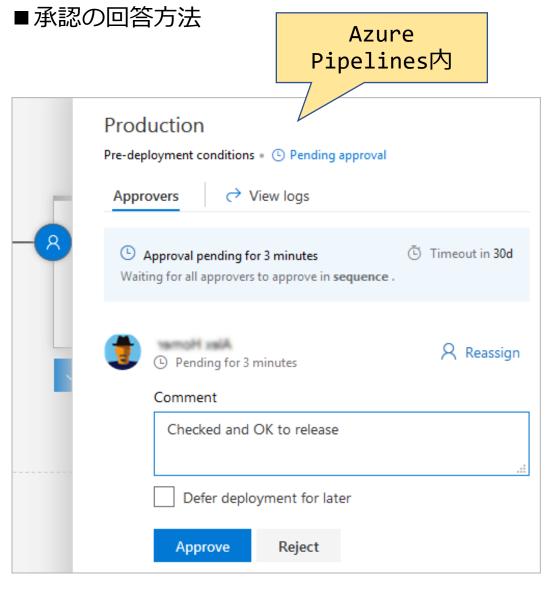
を行う。

「デプロイ前の承認」で、
許可されると、
このステージのデプロイが行われる

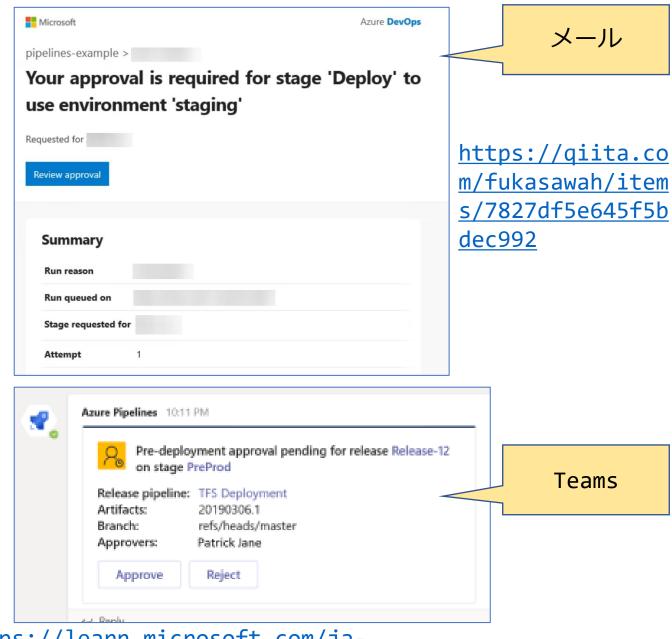
「デプロイが行われる

デプロイ

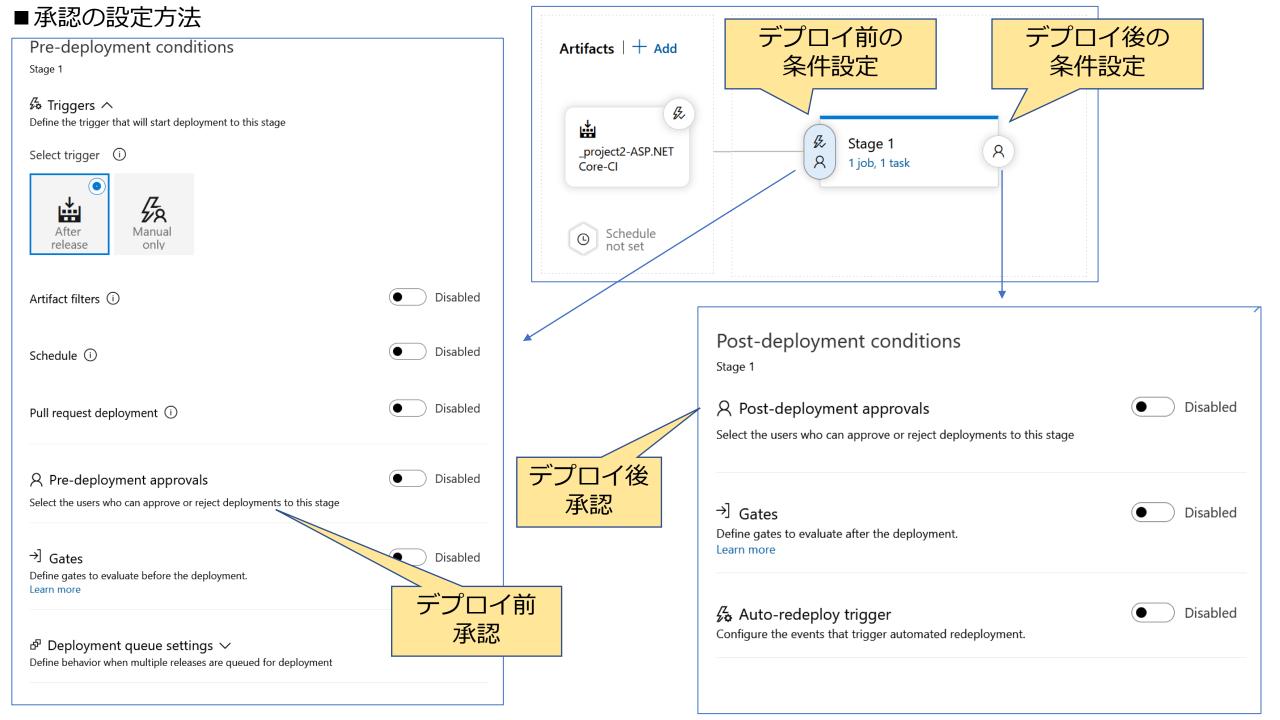
後続のステージが起動される



https://learn.microsoft.com/enus/azure/devops/pipelines/release/
deploy-using-approvals



https://learn.microsoft.com/jajp/azure/devops/pipelines/integrations/microsoftteams



パイプラインで変数を定義・利用することができる。

<mark>クラシック パイプライン</mark>、YAMLパイプライン</mark>両方で利用可能。

変数とは?

- パイプラインで使用する値を格納する。
- ・変数の利点:
 - 値ではなく変数名で書ける(値のハードコーディングを避けることができる)
 - ・パスワードのような機密情報をYAML内に書かず、変数で参照できる (シークレット変数)
 - 「式」や「組み込み関数」を使用して、パイプライン実行時に変数の値を評価 / 加工できる。
 - if-else を使用して、処理中のブランチに応じて値を変えることができる

式/関数: https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/devops/pipelines/process/expressions

変数の種類

• ユーザー定義変数: ユーザーが必要に応じて定義する変数

•システム変数(定義済み変数とも):Azure Pipelinesが自動的 に定義する変数

• 環境変数:OS固有の変数

※「ユーザー定義変数」と「システム定義変数」は「環境変数」として**も**設定される。

例: ユーザー定義変数 myval => 環境変数 MYVAL

```
■変数と式の使用例
                                     ファイル/ディレクトリを
                                        成果物として
                                        発行するタスク
       pool:
         vmImage: 'ubuntu-latest'
                                                 パイプラインの
                                                 ワークスペース
       steps:
                                                  ディレクトリ
       - task: PublishPipelineArtifact@1
         inputs:
           targetPath: '$(Pipeline.Workspace)'
  式
           ${{ if eq(variables['Build.SourceBranchName'], 'main') }}:
             artifact: 'prod'
  式
           ${{ else }}:
                                                処理中の
             artifact: 'dev'
                                               リポジトリの
                                                ブランチ名
           publishLocation: 'pipeline'
```

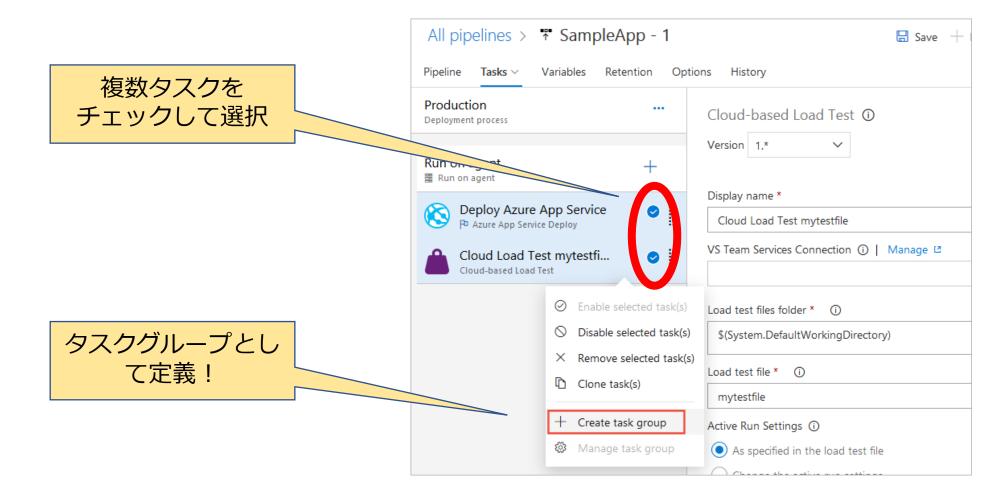
https://learn.microsoft.com/enus/azure/devops/pipelines/process/expressions?view=azure-devops#conditionally-seta-task-input

タスクグループ / テンプレート

タスクやステップの集まりに名前をつけて定義する機能。 タスクグループは<mark>クラシック パイプライン</mark>でのみ利用可能。 テンプレートはYAMLパイプラインでのみ利用可。

タスクグループとは?

- 複数のタスクをグループ化して名前を付ける機能。
- パイプラインのメンテナンス性が向上する。



テンプレートとは?

- 複数のステップをまとめて別ファイル(テンプレート)にする。
- 親のファイルでテンプレートを参照できる。
- YAMLパイプラインのメンテナンス性が向上する。

```
# File: templates/include-npm-steps.yml
                                           # File: azure-pipelines.yml
steps:
                                           jobs:
- script: npm install
                                           - job: Linux
- script: yarn install
                                             pool:
- script: npm run compile
                                              vmImage: 'ubuntu-latest'
                                             steps:
                       テンプレートを
                                             - template: templates/include-npm-steps.yml
                           利用
                                           - job: Windows
  テンプレートを
                                             pool:
      定義
                                              vmImage: 'windows-latest'
                                             steps:
                                              template: templates/include-npm-steps.yml
                       テンプレートを
                           利用
```